

平成 22 年 5 月 17 日現在

研究種目：基盤研究 (A)

研究期間：2007～2010

課題番号：19202018

研究課題名（和文） アジアにおける新国際秩序の形成と国際援助計画の総合的研究

研究課題名（英文） The integrative study on the relation of the formation of the new international order in Asia and the International-Aids Plan

研究代表者

渡辺 昭一 (SHOICHI WATANABE)

東北学院大学・文学部歴史学科・教授

研究者番号：70182920

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：コロombo・プラン、脱植民地化、冷戦、ヘゲモニー、国連、アジア国際秩序

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、冷戦体制におけるヨーロッパ国際秩序の再編問題を視野に入れつつ、戦後アジア国際秩序の再編に目を向け、アジアにおける帝国の終焉（脱植民地化）とアメリカによるヘゲモニー支配、アジアの地域連合という新体制への移行過程の特質を明らかにするために、国際的な経済援助が国民国家としてのアジア諸国の自立化をどのように導き、新たな国際体制にどのように編入したのか、その関連性を究明することにある。具体的には、イギリスの影響力温存、アメリカのヘゲモニー的支配の進行、アジアの地域的連合の形成の相互連関を意識しながら、国際的なアジア経済援助計画であるコロombo・プランとスターリング・バランスの処理、国連・世界銀行及びアメリカの経済支援に着目して、その計画を策定するに至った背景、アジア諸国における開発プランの具体的内容、そしてプランの執行とその実際の効果を中心に総合的に検討することをめざしている。

2. 研究の進捗状況

(1) 研究の推進に当たって留意した点は、まず基本的な一次資料の存在形態と収集に力を入れ、海外調査を積極的に実施した。特にイギリスのナショナル・アーカイブ、ロンドン大学、イングランド銀行、ケンブリッジ大学の各図書館、アメリカの公文書館、世界銀行の資料室などにおける調査を行い、研究の

基盤を作った。

(2) この資料調査とともに、国内の研究者は言うに及ばず海外の協力者や研究者との積極的な共同研究を実施してきた。初年度は沖縄において、アジア国際秩序研究の整理を行いつつアメリカからアジア外交の研究者を招き、アメリカのアジア認識をめぐり議論した。二年次には、仙台でイギリス（スターリング・バランス、英印関係史、脱植民地化）、ロシア（アジア政策）、アメリカ（アジア外交史）の研究者6名を招き国際ワークショップを開催した。このワークショップにおいて、コロombo・プランの役割とアジア国際秩序の再編、アジアの自立性など基本的枠組みを確認した。また台湾の國史館において台湾研究者8名との国際ワークショップを開催し、アジア側から見た国際援助に対する視点と問題点を議論した。三年次には、ユトレヒト（オランダ）の第15回国際経済史学会においてパネルディスカッションにエントリーして、グローバルな視点から議論する機会を得た。さらに、インドのネルー大学で国際ワークショップを開き、コモンウェルス体制の歴史的役割を中心にアジアのリーダーシップについて検討する機会を得た。

(3) その成果の一部を中間報告書 *The Formation of the New International Order in Asia and the International-Aid Plan* として英文叢書をまとめるとともに、台湾で実

施した国際ワークショップのプロシーディング *The Transformation of the International Order of Asia in 1950s and 1960s* を公開した。

(4) これまでの研究の結果、①冷戦体制下におけるアジアの国際秩序再編にはコロンボ・プランが非常に重要な役割を果たしたこと、②脱植民地化におけるイギリスの影響力をコモンウェルス体制で維持しようとしたが、限界があったこと、③当初のアメリカの関与が消極的であったが、1950年代後半から積極的に介入せざるを得なかったこと、④アジア諸国、特にインドとオーストラリアの指導力を発揮する体制が出来上がってきたこと、さらに⑤日本のコロンボ・プランへの参加が東南アジア国際秩序再編において重要な役割を果たしたことなどを明らかにした。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。
(理由)

当初の計画では、基盤(B)で検討した「アジアにおけるヘゲモニー転換」に関する研究を継承して、国際政治経済史の視点から国際援助計画に注目して、アジアの国際秩序の再編を展望することを目指していたが、国内外の国際ワークショップの開催や国際学会での発表により、プロジェクトメンバーだけではまとめきれなかったグローバルな問題を国際的水準の高い研究者との議論によって、より多角的な視点から研究を推進できたことである。

4. 今後の研究の推進方策

(1) これまでの研究成果を踏まえて、6月の社会経済史学会において、1950年代前半の援助計画と国際秩序の再編の関連を、10月には日本国際政治学会において、コロンボ・プランの実施変容過程について、2回報告を行う予定でいる。

(2) 同時に、研究成果について、グローバルな視点から評価を得るために、イギリスの出版社から英文叢書を公刊するとともに、日本語による叢書をも出版することを検討中である。

(3) 本研究で明らかにした点を踏まえた上で、新たな課題として確認できた点、特にコロンボ・プランの拡大状況、他の支援計画との関連、1970年代への展望、コモンウェルスの変容などについて検討をしていく予定でいる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

① 渡辺昭一、「戦後アジア国際秩序再編とコロンボ・プランの指針」『歴史と文化』、査読無、46号、2010年、109-131頁

② 渡辺昭一、「イギリス内閣府調査委員会とコロンボ・プランの作成過程」『ヨーロッパ文化史研究』、査読有、11号、2010年、295-319頁

③ 菅英輝、「アメリカのヘゲモニーとアジア秩序の再編」『北九州大学外国語学部紀要』、査読無、120号、2008年、85-126頁

[学会発表] (計3件)

① 'The Transformation of the International Order of Asia in 1950s and 1960s' The XVth World Economic History Congress, Utrecht, Netherlands, August 7, 2009. (Shoichi Watanabe, Shigeru Akita, Yoichi Kibata, Katsuhiko Yokoi, Hideki Kan, Osamu Yoshida, Ikuto Yamaguchi, Brian R. Tomlinson, Catherine Schenk, Ilya Gaidaku, Gerold Krozewski)

[図書] (計4件)

① 菅英輝、序章「変容する秩序と冷戦の終焉」菅英輝編著『冷戦史の再検討』法政大学出版社、2010年、1-35頁(11名)

② Shoichi Watanabe ed., *The Formation of the New International Order in Asia and the International-Aid Plan*, (the Interim Report by Grant-in-Aid for Scientific Research (A), 2009, 319p. (他16名)

③ Shigeru Akita and Nicholas J. White eds., *The International Order of Asia in the 1930s and 1950s*, Ashgate, 2009, 308p. (他9名)

④ 菅英輝、「アメリカ『帝国』の形成と脱植民地化運動への対応」、北川勝彦編『脱植民地化とイギリス帝国』ミネルヴァ書房、2009年、111-152頁(他11名)